

S02-2 アレルギー性副作用の発症機序、誘発要因および回避対策の検討の有用性

○宇野 勝次¹

¹福山大薬

医薬品有害反応では、発生機序と誘発要因の解明は必要不可欠である。医薬品有害反応の発現機序は、中毒性と特異体質性に大別され、さらに特異体質性は代謝障害性とアレルギー性に分類される。アレルギー性副作用、すなわち薬剤アレルギーは薬物又はその代謝産物が抗原（アレルゲン）として抗体や感作リンパ球が産生された場合に起こる。

薬剤アレルギーの発現様式は、用量非依存性で特異的なものである。同薬物の同用量を使用してもその薬物によるアレルギー反応の発症は患者により異なる。すなわち、薬剤アレルギーは、特定の薬物によって特定の患者のみに発現する。そこには何らかの誘発要因が存在する。その誘発要因を探ることは、回避対策につながる。

そこで、薬剤アレルギーの具体的な事例を提示して、その発生機序と誘発要因を解明し、回避対策を検討することの重要性について言及する。